通信 ともに
第94号
2023年2月28日発行
認定NPO法人ともに
住所　〒044-0053
北海道虻田郡倶知安町北３条西２丁目１－１
でんわ　（0136）55−5828
ＦＡＸ　（0136）55−5829
Ｅメール　info@npo-tomoni.com
ホームページ　http://www.npo-tomoni.com　　ブログ　http://blog.canpan.info/npotomoni/

今月の一枚

年賀寄附金で購入の除雪機
さっそく活躍

1月27日撮影

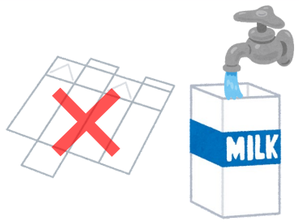
グループホーム よろこび　グループホーム ＧＨ緊急アンケートに協力

昨年末、道内江差町の障がい者グループホームで入居者が結婚などで同居する際、GH側が不妊治療を提案したことが報道されました。これを受けて道は1月30日、「共同生活援助事業所における入居者の結婚等に係る実態調査」を道内409か所のGHに実施しました。当法人も調査に協力し、30項目の質問にオンラインで回答しました。

内容は、入居者のこれまでの結婚・出産状況や、入居者の結婚に対する管理者の考えを記述するものでした。後日入居者への聞き取り調査もあるとのことで、こちらも協力していきます。調査結果は後日道から発表されます。

牛乳パック・書き損じはがき集めてます

牛乳パックは洗って乾燥し、切り開かず袋などに入れてご持参ください。



当法人では牛乳パックや書き損じはがきを受け付けています。牛乳パックはWSの利用者が切り開く作業を経て道栄紙業に買い取ってもらっています。また書き損じはがきは切手などに交換し活用しています。

ご寄付される際はかわさきまでご連絡ください。当法人まで持参していただけると嬉しいです。

コミュニティカフェ わっくわく　道主催インスタキャンペーン

北海道では当カフェを含む「北海道第三者認証店」で撮影した写真をインスタグラムに投稿すると、抽選で北海道内のホテルで使えるペア宿泊券が当たるキャンペーンを実施中です。

「#ほっかいどう認証店に行こう！キャンペーン」のウェブサイトhttps://do-safety.jp/cp/に実施要項があります。締め切りは3月17日（この日まで投稿有効）です。

インスタグラムのアプリを開き、「#ほっかいどう認証店」（@hokkaidoninsyo）をフォロー

当カフェなど道内の第三者認証店で「安全・安心、おいしく食事」をイメージした写真を撮ります（周りのお客さまへご配慮をお願いします）

お店の店舗名などをコメントし、ハッシュタグ「#ほっかいどう認証店」をつけて投稿。

今月の一句詠む読む

俳句・川柳の投稿はカフェの投稿箱、
もしくはEメール　info@npo-tomoni.com　へ。

歳の暮れ
師を送り出す
風寒し
山河水鏡

詠み人解説
人生の師と仰いだ方が年末に亡くなられた。告別式の朝の風がとても冷たく感じた。

軽い雪
足跡深く
気は重く
山菜取りのおばさん

詠み人解説
積もった軽い雪は、歩くのが心地よい。けれど除雪しなきゃという思いも付いて来る

雪遊び
子どもは熱中
親冷える
さかさかまぼこ

詠み人解説
子どもとの雪遊び、熱中するあまり時間を忘れ、見守る親の身体は冷える一方。早く終わってくれ～

精神科医　土田正一郎の

その76　余裕考①

最近診察室では余裕について考えることが多くなっている。私に心に余裕はあるか、患者さんに私の話を聞く余裕はあるか。社会全体の余裕の有無で診察室の雰囲気はかなり変わる。余裕も持たなくてはならないなどというつもりはない。自分の余裕状態は過たず把握しておきたいと思っている。余裕のない私が、余裕のない患者さんに余裕のない診察室であれこれと余裕のない指示を出していたものだなあ。

各事業報告～2月20日現在

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい　契約／移行1人、B型21人

グループホーム よろこび　利用者数　21人　空室１部屋

K.S.C. Juntos　当事者選手　8人
サポートスタッフ　8人

◆法人会員　正会員19人
賛助会員　団体3団体　個人46人
◆今年度寄付金　のべ16人　738,000円
◆寄付物品　牛乳パック　りんご　コーヒー豆

編集後記

最近読んだ記事によると、有名な昔話でも時代により変化しているとのこと。例えば「さるかに合戦」の題名は今「さるかにばなし」と変わり、内容もマイルドに。コンプライアンスの波が昔話にも来ているようです。当広報紙もコンプライアンスを意識し、誤字脱字はもちろん表現もチェックを重ねて発行しています。(かわさき)

中井久夫を読む

日本を代表する精神科医であり、軽妙なタッチで数多くの著書を残した中井久夫[1934-2022]のファンだという当法人職員から話を聞きました。

職員が中井を知ったきっかけは、当法人に勤める前の2009年のこと。書評サイトで『臨床瑣談』を知り、夢中で読んだそうです。雑誌の連載を書籍化したもので、彼の臨床経験で体験したことを記したエッセイです。それ以来彼の著書を好んで買うようになったとか。

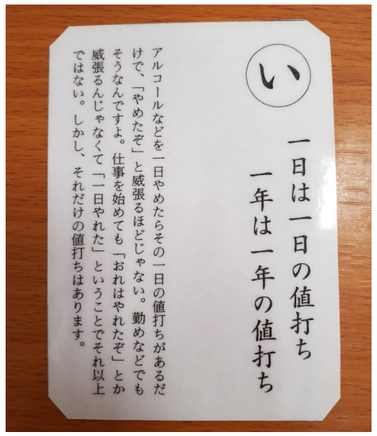
『臨床瑣談』と続編の『続臨床瑣談』

彼は診察した患者に漢方薬の処方やアロマテラピーなどの薬だけでないアプローチを実践しました。また1995年の阪神淡路大震災の時は、当時あまり注目されていなかった「心のケア」に尽力し、「目の前にいる人を何とかしたい」という思いが彼の行動の根底にあったそうです。

職員は『こんなとき私はどうしてきたか』（医学書院 2007）に掲載されている「精神保健いろは歌留多」なる50音のカルタをカードにし、毎日引いて楽しんでいるそうです。

みなさんもぜひ読んでみてはいかがでしょうか。入門編として昨年12月に放送されたNHK Eテレ「100分de名著　中井久夫スペシャル」のテキスト版［NHK出版 2022］もおすすめです。

（ききて：かわさき）



職員がコピーし手づくりした
「精神保健いろは歌留多」の一枚

障害者総合支援法ほか改正

昨年12月10日に障害者総合支援法ほか精神保健福祉法など5法の一部を改正する法律が成立されました。

北海道精神障害者家族連合会（北家連）の広報紙「HSKひまわり第613号」に、道立精神保健福祉センター岡崎大介所長が要点を解説したエッセイが掲載されました。

岡崎所長は特に「市町村長の同意による医療保護入院（右表３①）」と「入院者訪問支援事業（表３②）」が、これまで長期入院されている方が地域移行する手段になりえると述べています。

精神障がい関連の改正内容を右表にまとめました（かわさき抜粋）。

各法改正の概要　　厚生労働省発行の資料より

1，障害者等の地域生活の支援体制の充実
①グループホームの支援内容に一人暮らし支援や退去後相談を追加。
②市町村等実施の精神保健に関する相談支援について、精神保健に課題を抱える者も対象に。

2、障害者の多様な就労ニーズに対する支援及び障害者雇用の質の向上の推進
①就労アセスメントの手法を活用した「就労選択支援」を創設。
②週所定労働時間10時間以上20時間未満の精神障害者らを実雇用率の算定可能に。

3，精神障害者の希望やニーズに応じた支援体制の整備
①家族等の意思表示がない場合も市町村長の同意により医療保護入院を可能とする。
②医療保護入院者を中心にした「入院者訪問支援事業」の創設。
③精神科病院での虐待に対し、都道府県等に通報する制度を創設。

わたしのお気に入り
My favourite things

今回はグループホームとワークショップようていを利用されているヨシノリさんです。部屋いっぱいに花を育てている情報が。さっそくお部屋を訪問しました。

第2回　ヨシノリさんの植木鉢

ヒヤシンス

カランコエ

プリムラポリアンタ

デンマークカクタス

部屋に花を飾るようになったのは昨年からです。部屋ががらんとしていたので華やかにしようと思い立ち、近くの花屋さんで鉢を買うようになりました。今では8種類育てていて、冬でも可憐な花を咲かせています。

花を置く棚を買ったらもっと部屋が良くなった気がします。暖かくなると花の香りがただよい、心地よいです。

きっかけはWS農業部の経験からです。作物づくりで得た技術を花に生かそうと思いました。

若いころは伝書鳩を飼っていました。そのころは仲間と鳩を飛ばして帰ってくるのを競うレースにも参加しました。良い子が産まれるように交配をしたこともあります。5年ほどでやめましたが、とても良い思い出ですね。

素敵なエピソードをいっぱい聞かせてもらいました。ヨシノリさんは利用して3年以上経ちますが、伝書鳩の話は今回初めて聴きました。20羽ほど飼っていたそうで、生き物を飼う苦労と楽しさを楽しそうに語っていました。

「わたしのお気に入り」次回もお楽しみに。

障がい者就労支援事業所
ワークショップようてい

週末もレク・除雪でＷＳ活動

1月28日土曜日、WS利用者が実行委員会をつくり、スリッパ卓球をしました。ネットの代わりに段ボールを使うなど、手作り感満載で楽しみました。

2月4日土曜日、臨時の除雪作業をしました。今シーズンは雪の多さに苦労していますが、利用者7人で一生懸命に作業しました。